

## 徘徊感知器 導入結果報告書

● 施設名：サービス付き高齢者向け住宅 S

● 導入の目的

- ・今回導入する徘徊感知器によって得られた効果や成果を明らかにすること。
- ・ロボット介護機器等を導入する際に参考になる知見を蓄積すること。

● 導入期間：2019年11月1日～2020年3月31日

● モニタリング日：2020年3月13日

● 導入製品：CAREai つながるモデル 超音波センサー  
(ハカルプラス株式会社)



〈 特徴 〉

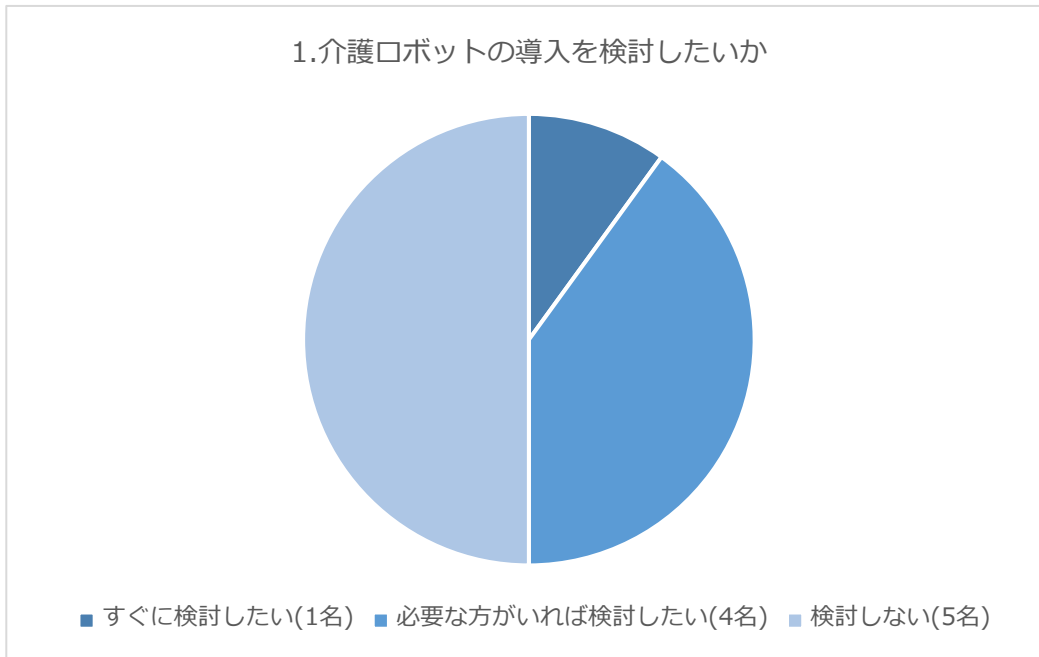
「超音波」を使った「動き」を検知するセンサーで、離床や離室、徘徊などの行動をお知らせする。センサー本体にはベッド下・ベッド上・徘徊の3モードを選択でき、様々なシーンで使うことができる。製品本体に直接触れない検出方法で、さりげなく対象者の見守りが出来る。

受信機は固定型と携帯型の2種類があるため、事務所やフロアから離れた場合でもお知らせを受け取ることが出来る。(下図参照)

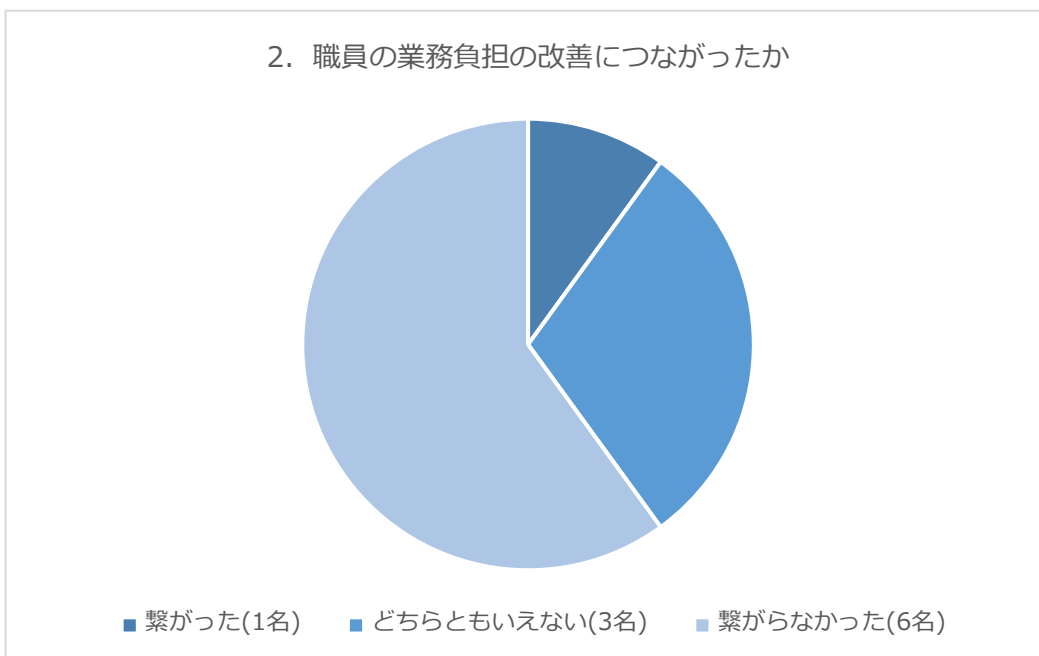


●現場アンケート調査結果（対象者：3階フロア関係職員 10名）

1. 介護ロボットの導入を検討したいか



2. 職員の業務負担の改善につながったか

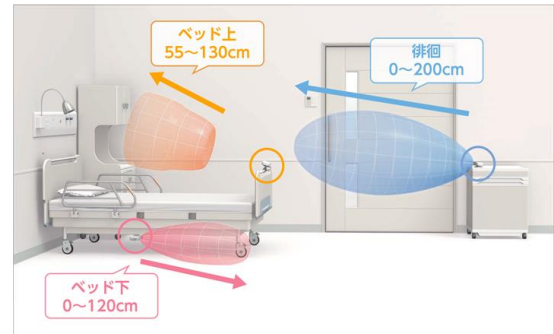


● ご使用におけるメリット

1. 巡視する負担の軽減
2. 受信機の機能を使い、反応履歴や反応の分布を確認することで、反応頻度の見える化が可能になり、これまで知らなかった利用者の行動が把握出来るようになった。

(利用者のトイレへ行く時間を把握出来るようになった)

3. 設置方法のバリエーションが多いため、1台で離床・離室の両方を検知でき、様々な対象者に有効だった。(右図参照)
4. 直接触れて使用しないため衛生管理が簡単に出来た。
5. 事務所を離れた時でもペンダントでの遠隔受信が出来た。



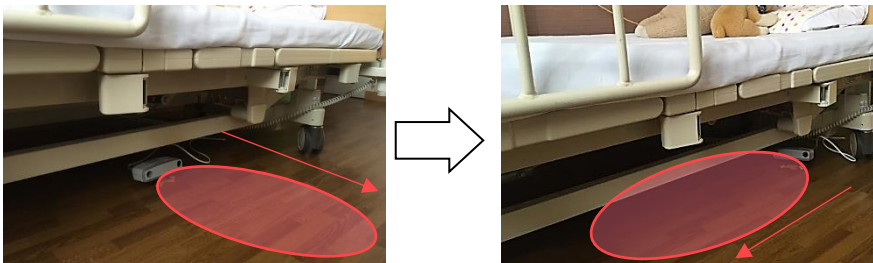
● ご使用中の課題

1. 超音波センサーが反応しすぎることがある(ベッドへ近づくと頻繁に鳴る)
2. 超音波センサーの検知範囲が目に見えないため設置が難しい
3. 子機から超音波センサーが有線のため、ケーブルを這わすのが難しい

● ご指摘事項の解決策のご提案

1. 超音波センサーが反応しすぎることがある

- ・センサー自体の位置ずれが原因→センサー位置を固定するために、床に目印テープを貼る。
- ・ベッド降り口以外の不要箇所を検知している可能性が高い→ベッド降り口全体を覆うように位置を調整する。(下図参照)



2. 超音波センサー検知範囲が目に見えないため設置が難しい

- ・超音波センサーにある「検出音」モードで、超音波の出ている範囲を音で確認することが出来る

3. 子機から超音波センサーが有線のため、ケーブルを這わすのが煩わしい

- ・LANケーブルの長さ調節が可能。2m、3m、5mの3種類から適切な長さを選択できる。
- ・今回の導入対象機器はセンサー⇄子機間が有線タイプの製品だったが、同社は無線タイプのマットセンサーも発売中。コンセントから10m範囲で使用できるため、コンセント位置やケーブルの配線を気にせず使用も可能。

以上